

情報判定シート

資料1

	題名	情報収集の視点			④検討に見合う情報か	⑤総合的な検討の必要性	⑥緊急な情報提供の必要性	自由意見
		①健康被害の未然防止	②危害の拡大防止	③正しい情報提供				
ア	一般流通食品中の糖アルコール含有量調査について	○	○	△	×			④における検討に見合う情報は不十分と判断した。エリスリトールに関しては、緩下作用は比較的弱いながらあるが、国内ではアナフィラキシーの症例が10例以上報告されている。そのため、本調査に関する情報はそのことを含めるか選定委員会の検討が必要と考えられる。
		○	△	○	×	×	×	平成25年度の実態調査結果はのっているのでしょうか？暴露評価を行うには飲料水の摂取量を把握する必要があると思います。
		○	○	○	○	○	○	果糖の健康影響が明らかにされつつある中、デンプン・グルコースとは消化吸収・代謝の様相が異なる糖質の安全性には注意を払う必要があります。一般食品中の糖アルコール含有量調査に基づく今回の収集情報は、過剰摂取防止の観点で適切に情報提供するのが妥当と考えます。
		△	○	○	○	2	×	一過性の下痢症状よりも、ダイエット志向の高まりで「ゼロカロリー」、「低カロリー」が注目される中、人工甘味料のホルモンへの作用、依存性などが報告されていることが気がかりでした。
		○	○	○	○	○	○	砂糖以外の甘味料の使用目的が、低カロリー食品を求めるとどまらず多様化してきています。これらの甘味料がヒトに及ぼす健康影響につきましても、エリスリトールをはじめソルビトールなどによる健康被害も危惧されるようになってまいりました。したがって、本委員会で検討すべき情報であると考えます。

情報判定シート

題名	情報収集の視点			④検討に見合う情報か	⑤総合的な検討の必要性	⑥緊急な情報提供の必要性	自由意見
	①健康被害の未然防止	②危害の拡大防止	③正しい情報提供				
イ 飲料中のカフェイン含有量について	○	○	○	○	○	○	本件は都民に関心が高いと思われる。
	○	△	○	△	△	△	
	○	△	○	○	○	○	収集情報の適切な提供は、カフェイン含有飲料を子供に与える際の意識向上に有益と考えます。
	×	△	○	×～△	3		カフェインの感受性に個人差があり、健康被害がさほど深刻でない点。注意すべき層にはある程度の認識があるのでは。 一般的な食品のカフェイン含有率などについては、広く認知されるような働きかけが必要かと考えます。
	○	○	○	○	○	○	本件につきましては、かつての委員会においても検討すべきか否かについて議論された経緯があります。当時の委員会では、情報収集を継続することにとどめることになりました。 現在では、これらに関する情報も多くなってきましたので、都民の皆様に向けて情報発信するタイミングであると考えます。

情報判定シート

題名	情報収集の視点			④検討に見合う情報か	⑤総合的な検討の必要性	⑥緊急な情報提供の必要性	自由意見
	①健康被害の未然防止	②危害の拡大防止	③正しい情報提供				
ウ 魚種別アニサキス寄生状況調査	○	○	△	○	○	○	アニサキスに関しては、ヒラメ等の寄生虫グダアが問題になったことから関心が高くなっている。健康危害防止対策等の情報も検討するべきかと思われる。
	○	○	○	○	○	○	背景がわかりにくいです。
	△	○	○	○	○	○	今回の収集情報の主体は都の実態調査に基づくエビデンスです。健康被害は既に生じていますが、適切な情報提供が、都民はもとより、他道府県の関係者にとっても、健康被害の未然防止、危害の拡大防止に有益と考えます。
	○	○	○	○	1	△	発症した際の健康被害が深刻である点と出現率の高さに比して、認知度があまり高くない印象を受けます。
	○	○	○	○	○	○	アニサキスによる食中毒につきましては、過去にも積極的に情報収集され、都民に向けてその情報を提供してきました。しかし、現状は、食中毒件数が増加する傾向にあります。また、アニサキスが寄生している魚種につきましても、都における積極的な調査の結果、サバやイカのみならず、カツオやサンマ、ホッケ、キンメダイなど、多くの魚種にも寄生していることが分かっています。 ここで、再度、情報提供する必要があると考えます。